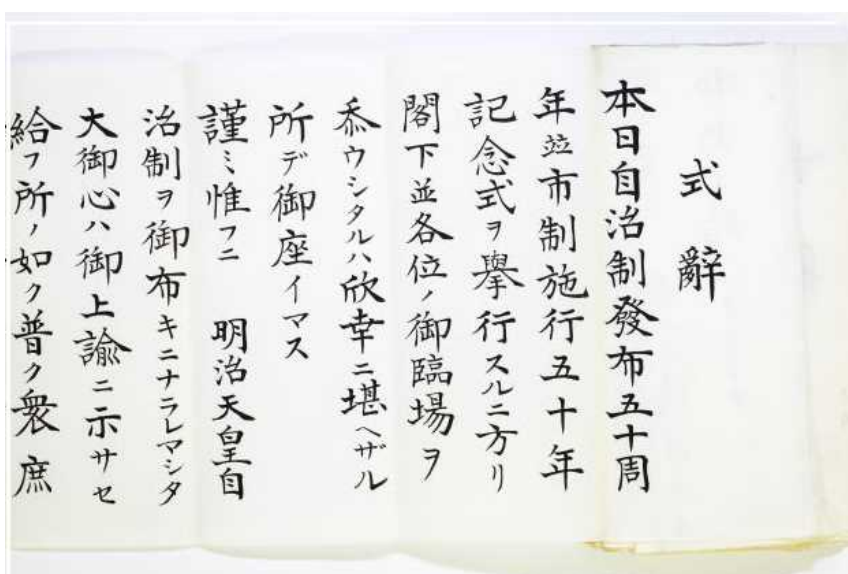


蛇腹折りのあいさつ原稿

現在も公式の場で式辞や祝辞などを述べる際には、蛇腹折りのあいさつ原稿を用いて行うことが多くあります。

蛇腹折りの原稿は、山折りと谷折りを繰り返す作りで、コンパクトで体裁が良く、テンポよく読むことができます。

昭和13年の公文書の中に、秋田市長や秋田市会議長などの蛇腹折りされたあいさつ原稿が残っています。



「昭和13年 自治制發布50周年記念書類」より

左の文書は、昭和13年7月12日に秋田市で行われた「自治制發布50周年および市制施行50年記念式典」の際に、秋田市長鈴木安孝があいさつした式辞原稿です。

横判縦書きで、折り目から3行毎に蛇腹折りになっていたことが分かります。

蛇腹折りの原稿を左手で開きながらあいさつし、右手で器用に折りたたんでいくことから、厳粛で格式ある式典となります。

右の文書は、同じく「自治制發布50周年および市制施行50年記念式典」の際に、秋田市会議長片屋永之助が述べた祝辞原稿です。

市制施行当時（明治22年）人口は29,473人であったが現在63,834人で約2.2倍に、歳出予算は当時11,327円であったが現在784,300円で約69倍に増え、教育や産業・交通・社会事業などの躍進が目覚ましいことを伝えています。

